演習の留意点

１．限られた時間内で協議する

1. 限られた時間の中で最善の合意を図るようにする。
2. 時間内で検討できなかった場合には、どのようなことが残ったのか、どのようなところで意見が分かれているのかなどを明らかにしておくことが大切である。

２．共通の「用語」を用いる

1. 話している言葉は同じであっても、使っている意味が異なることは多いもの。
2. 同じ職種や職場の人同士では、自分たちだけわかる用語や省略した用語を使っていることがある。
3. グループ討論には、それぞれ独自の共通用語を持つ方々で論議が行われるので、ますます意思疎通が難しくなる。「わかっているつもり」「わかっているはず」は禁物である。
4. こういう用語や言葉はわかっているはずと、それぞれが勝手に思い込み、こんなことを聞いたら笑われるのではという気持ちを捨てて「確認し話し合う」。

３．参加者がその時点で最良の方法であると合意する

1. 事例検討の場は、検討成果を明らかにして確認することが大切であり、とにかく何らかの「結論」を出すことが大切である。
2. 検討だけしても具体的な方法など見つからなければ、何のための「検討」だったのかわからなくなる。
3. 事例検討は、実際の方法を体験する意味から、ケアプランという形で具体的に何らかの結論を出すようにする。
4. その「結論」は決して「正解」ではない。その時点で最良の方法であると参加者が合意したものである。
5. なぜ、最良と判断して合意したのかを明確にしておくと、対象者と対象者を取り巻く状況の変化や新たな資源などに対応して、判断を修正することができるので、参加者が納得して課題に取り組むことができる。
6. また、多様な視点、考え方を知ることにより、参加者相互の理解の内容を知ることができ、共通の目標を見つけることができるようにすることが重要となる。

４．提供された資料を批判してはならないが、根拠を求める

1. 提供された資料は「完全なもの」ではない。
2. それぞれの専門性というフィルターを通して見て、聞いて、判断したもの。
3. それぞれ異なった専門性、異なった視点から見直せば、異なったものが出てきて当然。
4. だからといって、提出された資料について専門性を否定するような批判や非難は、事例検討という基本を崩すことになる。
5. 更に、対象者や家族が参加する事例検討の場であれば、担当者や参加している他の専門職への信頼を失わせることになる。
6. しかし、提供する情報には全ての根拠が必要である。
7. なぜその情報が必要と思ったのか、なぜそのような事象から一定の情報を導き出したのかということは、事例検討において最良の方法や合意する上で大切なことである。
8. 根拠のない情報で判断することは明確な方針や目標に到達できない危険性をはらんでいる。

５．意見の根拠を参加者に示す

1. 事例検討の参加者は、それぞれが自分の意見を述べるときに、意見の根拠を示すことが大切である。
2. 「わからない」から疑問を出すのではなく、自分なりに可能性や明確な推理を持っていて疑問を出し、意見を出すことが大切である。
3. 自分が判断する上で、この情報がなぜ必要なのかという姿勢で質問すること、意見を示すことは、合意形成にとって必要なことである。
4. この部分の疑問が解決され、このような判断を自分でできるという根拠を示せば、多様な視点、考え方を知ることになる。
5. 何か言わなければならないのではないかということだけで、「とにかく質問した」「とにかく意見を出した」というだけでは、意見発表会という内容で終わってしまい、事例検討が目指す「その時点で最良の合意」に至ることはできない。

６．出された意見の疑問は出しても、批判・非難はしない

1. 自分の考えが正しいとは限らない。
2. 自分の専門性が絶対に優位だということでもない。
3. 異なる視点、異なる考え方があることを認識することが重要である。
4. 特に、現実の場面は第三者的立場で見るものではないので、「自分であればどのように考える」、「自分であればどのように対応する」ということを示さないことは、事例検討の参加者として責任と義務を果たしていることにはならない。
5. 事例検討で評論家はいらない。
6. それぞれの役割に基づいて責任を分担する参加者が必要である

７．自分が意見を変更する場合はその根拠を示す

1. 自分の意見を変更することは、自分の意見に誤りがあったということではなく、他の人の意見に合理性があり、納得できるということであり、決して恥ずかしいことでなない。
2. 納得したこと、気づかないことを明確にすることにより、自分の判断のプロセスを他の参加者と共有することになる。
3. 自分の意見に根拠をもつと同時に、他の人の意見の根拠にも耳を傾けることは、事例検討における基本姿勢である。